



「日本一のため池密集地」

県立加古川北高等学校の周辺には美しいため池が多くあり、毎日表情を変えながら生徒たちを見守ってくれています。東播磨地区に住んでいる者にとって、ため池は地域の装置として当たり前の風景を形成しています。他県の方と話しをしている時、「加古川は“ため池”が多い所ですね。」といわれたことがあって、加古川のため池は全国区なのだと再認識したことがありました。

加古川市が位置する地域には「印南野台地」があり、瀬戸内式気候の影響を受け、降水量が少なく、水に乏しい地域です。ため池は全国で約 21 万カ所あり、その内兵庫県は 43,347 カ所（H21.4）で全国一の数を誇ります。第 2 位の広島県が 20,183 カ所、第 3 位の香川県が 14,619 カ所と比してもいかに多いかがわかります。

加古川市に限ると、現在 332 カ所のため池があります。隣接する稲美町には、加古大池 48.9ha、天満大池 34.6ha で貯水面積では県内第 1・2 位の規模を誇るため池が存在します。天満大池は、築造が大和時代後期である 675（白鳳 3）年頃と推定され、兵庫県下で最も古いため池とされています。



加古川市内には、イオン加古川店南西に「駅ヶ池（うまがいけ）」があり、646（大化 2）年頃創立された日本最大（馬数 40 頭）の賀古駅家（かこのうまや）」があったといわれ、池の名称となっています。

これらのすばらしいため池資源を次世代に引きついでいくために「いなみ野ため池ミュージアム」が設定され、それを核とした地域づくりがめざされています。

県立加古川北高等学校の生徒たちは、そのため池の自然の恵みを受けて育まれていることに感謝します。